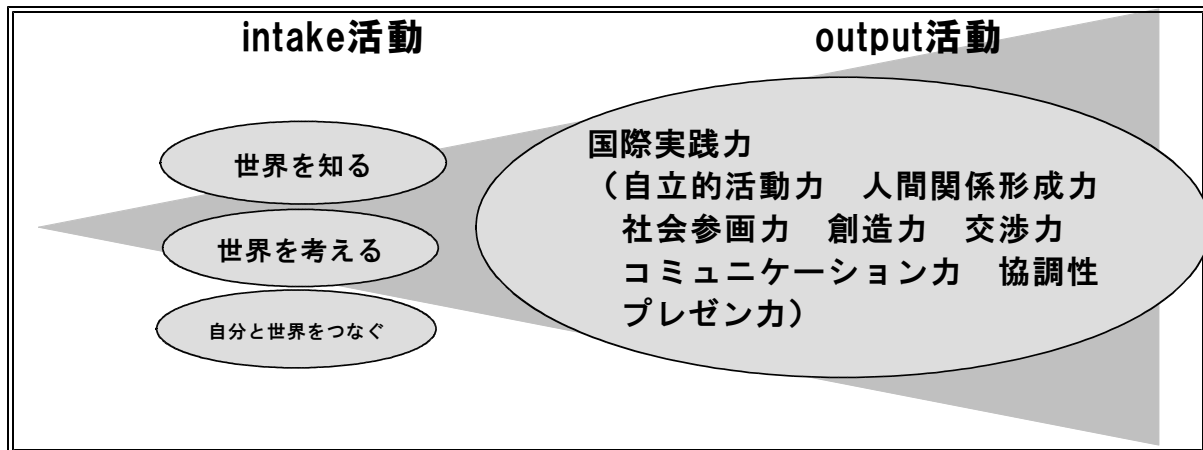


## ○視点2： 国際実践力を育成する学習活動の構築

国際実践力を育成するためには、output（出力）活動が重要であるが、これまでの活動で培った intake 活動がその基盤となる。intake 活動の充実が、output 活動に必要不可欠である。

そのことを念頭に置きながら、授業では、プレゼンテーション、発表会、シミュレーションなど活動を多く取り入れていく。また、対話やディスカッションを通して新しい価値観をさぐり、自律的活動力・人間関係形成力（コミュニケーション力）や創造性・協調性・交渉力・社会参画力といった国際実践力を身につけさせていく。

### 【主にBASIC3（情報発信・行動的項目）の領域】



## 7 授業のポイント

### ※指導案では

サブテーマとの関連を明確にするために、指導案に次のように記述する。

- ①児童生徒が自分と世界とのつながりを意識する学習活動場面は（基礎力）と記述する。
- ②児童生徒が世界を体感・実感し考える活動場面は、（思考力）と記述する。
- ③児童生徒が仲間と共に主体的に行動しようとする場面は（実践力）と記述する。

上記①～③の力の育成の過程で、国際実践力の育成に直接結びつくような活動の場面を設定する。

なお、指導案中の授業の目標については、各教科等の目標を○を付けて記述し、国際理解教育に関する目標には●を付けて記述する。